

## 帯状疱疹予防接種の説明書

### 1 帯状疱疹とは

帯状疱疹は、過去に水痘にかかった時に体の中に潜伏した水痘帯状疱疹ウイルスが再活性化することにより、神経支配領域に沿って、典型的には体の左右どちらかに帯状に、時に痛みを伴う水疱が出現する病気です。合併症の1つに皮膚の症状が治った後にも痛みが残る「帯状疱疹後神経痛」があり、日常生活に支障をきたすこともあります。帯状疱疹は、70歳代での発症が最も多くなっています。

### 2 令和7年度に定期接種の対象となる方

- ① 令和7年度内に65歳を迎える方
  - ② 60~64歳でヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害があり、身体障害者手帳の1級をお持ちの方
  - ③ 令和7年度内に70、75、80、85、90、95、100歳となる方、もしくは100歳以上の方\*
- \*100歳以上の方については、令和7年度に限り定期接種の対象となります。
- \*③は令和7年度から令和11年度までの5年間の経過措置として対象を設けています。

### 3 帯状疱疹ワクチンとは

帯状疱疹ワクチンには生ワクチン(阪大微研:乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」)、組換えワクチン(GSK社:シングリックス)の2種類があり、接種回数や接種方法、接種スケジュール、接種条件、効果とその持続時間、副反応などの特徴が異なっていますが、どちらも帯状疱疹やその合併症に対する予防効果が認められています。帯状疱疹を発症したことがある方も、再発予防として接種が可能です。

#### □2つの帯状疱疹ワクチンの違い

	生ワクチン(阪大微研)	組換えワクチン(GSK社)
接種回数(接種方法)	1回(皮下に接種)	2回(筋肉内に接種)
接種スケジュール	—	2か月以上の間隔をおいて2回接種
接種できない方	病気や治療によって、免疫が低下している方には接種出来ません。	免疫の状態に関わらず接種可能です。
接種に注意が必要な方	輸血やガンマグロブリンの注射を受けた方は治療後3か月以上、大量ガンマグロブリン療法を受けた方は治療後6か月以上おいて接種してください。	筋肉内に接種をするため、血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方は注意が必要です。

その他に、接種前に発熱を呈している方、重篤な急性疾患に罹っている方、それぞれの予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな方等はいずれのワクチンも接種出来ません。

また、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患有する方、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状のあった方、けいれんを起こしたことがある方、免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方、帯状疱疹ワクチン(生ワクチン、組換えワクチン)の成分に対してアレルギーを起こすおそれのある方等はいずれのワクチンについても接種に注意が必要です。

## 4 帯状疱疹ワクチンの効果

		生ワクチン(阪大微研)	組換えワクチン(GSK 社)
帯状疱疹に対するワクチンの効果 (報告)	接種後 1 年時点	6 割程度の予防効果	9 割以上の予防効果
	接種後 5 年時点	4 割程度の予防効果	9 割程度の予防効果
	接種後 10 年時点	—	7 割程度の予防効果

※合併症の 1 つである、帯状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後 3 年時点で、生ワクチンは 6 割程度、組換えワクチンは 9 割以上と報告されています。

## 5 帯状疱疹ワクチンの安全性

ワクチンを接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、生ワクチンについては、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、無菌性髄膜炎が、組換えワクチンについては、ショック、アナフィラキシー、ギラン・バレー症候群がみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の発現割合	生ワクチン(阪大微研)	組換えワクチン(GSK 社)
70%以上	—	注射部位の疼痛
30%以上	注射部位の発赤	注射部位の発赤、筋肉痛、疲労
10%以上	注射部位の搔痒感・熱感・腫脹・疼痛・硬結	注射部位の腫れ、胃腸症状、悪寒、発熱
1%以上	発疹、倦怠感	痒み、倦怠感、全身疼痛

## 6 他のワクチンとの同時接種・接種間隔

いずれの帯状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合は、インフルエンザワクチンや新型コロナワクチン、高齢者肺炎球菌ワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。ただし、生ワクチン(阪大微研)については、他の生ワクチンと 27 日以上の間隔をおいて接種してください。

## 7 接種を受けた後の注意点

- ・ワクチン接種後30分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医師(医療機関)へ連絡してください。
- ・注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。
- ・接種当日の激しい運動は控えるようにしてください。

## 8 予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なのですが、健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。給付申請を検討する場合には、診察した医療機関や佐久市役所健康づくり推進課保健予防係(佐久市保健センター)までご相談ください。

### 【問い合わせ先】

佐久市役所 健康づくり推進課 保健予防係 電話：0267-62-3527(直通)  
(佐久市保健センター)